



令和7年3月

金岡南小学校 保健室

学校保健給食委員会 特別号

3月3日に、金岡南小学校の児童の健康を支えている方々が集まって、話し合いました。今回は、その様子をお届けします。

学校歯科医 栗田先生より ~けがで歯が抜けた時・歯列矯正の意義~



けがをして大人の歯が抜けた時は、抜けた歯が汚れていても、洗わずに歯科へ持ってきてほしい。乾燥すると、元に戻らない可能性があるため、水道水ではなく、牛乳や生理食塩水に浸しておいてほしい。神経を痛めている場合は、歯の変色が起こる。歯の打撲で、神経を痛めているかどうかは、レントゲンではわからない。痛みや腫れがない場合は、そのまま経過観察となる場合が多い。

現代のお子さんは、舌の力が弱く、内側に向かって生える歯を外側に向かって押すことが難しい。歯のアーチが狭いと、舌を収めることができず、舌が喉の方に下りてしまい、息苦しくなることもある。アーチを広げるという意味でも、歯列矯正の意義があるといえる。舌筋を鍛えるには、よく噛むことが効果的である。

体育主任より



休み時間には、外に遊びに行く児童がたくさんいる。しかし、児童数が多いので、運動場を割り当てて使っていることや校外の公園が狭いこと等から、運動に親しむ機会が少ない。ドッジボール大会や大縄大会、鬼ごっこ大会などを企画し、みんなで運動ができる機会を作っていきたい。

「体の柔らかさ」・「跳ぶ」・「投げる」ことに力を入れて、体育の授業に取り組みたい。

遊具・体育器具での事故を防ぐため、用具の管理を徹底し、安全面にも気をつけていきたい。

栄養教諭より



毎日、1200食を調理員16名で作っている。すべて加熱調理で、75℃で1分以上の加熱を確認している。

6年生におこなった「もう一度食べたい給食アンケート」で人気だった献立を、3学期の献立に取り入れている。1位は、カレーライス・トック・みそラーメン・ぶたキムチ・あげパン・チョコチップケーキであった。

残食では、ごはんやパンが多く、和食の日は、いつもより多くなる。

今年度2月より、食物アレルギーの除去食対応がある日は、個人用カラー盆を使用し、配膳の間違いのないように取り組んでいる。



保健室より



健康診断の結果から、6年生のやせの人数が多いことがわかった。無理なダイエットで心と体の調子を崩すことのないよう、見守っていききたい。視力 C の児童が、すべての学年で堺市の平均を超えている。視力 D の児童を増やさないよう、目の保健指導に取り組みたい。歯科検診後の受診率が、約60%と低かった。未受診の方へのお知らせを工夫していきたい。

今年度新たに、5年生の命の授業と、3年生以上へ心の健康アンケートをおこなった。心の健康アンケートにおいて、心の元気を0~10で表す項目では、平均値が7.5となった。心の元気が10に近づくよう、心の健康について取り組んでいきたい。

学校歯科医 田中先生より



けがで大人の歯が抜けてしまって、牛乳も生理食塩水もない時は、唾液に浸すことで代用できる。抵抗があるかもしれないが、保護者の方の口の中に入れてもらっても良い。



学校薬剤師 福田先生より



エピペン・てんかん・低血糖の対応について、教職員が学べるように情報提供したい。薬物乱用防止教室では、オーバードーズについて触れていきたい。市販薬がネットで購入されている現状があり、お子さん名義で届いた荷物を確認できれば良いが、できない場合もある。また、心の安定を図ることも大切である。



薬の容量は、年齢や体重によって区分がある。薬の正しい飲み方について伝えていきたい。

北保健センター 保健師より



本校区の出生率は、北区の中でも最多だが、減少傾向にある。共働き家庭が多いのが特徴であり、忙しさにより、がん検診を受けにくい現状がある。検診の日程は、堺市の広報に掲載されるので、確認してほしい。

北保健センター 歯科衛生士より



北区は、むし歯のあるお子さんの数が少なく、その中でも本校区は少ない。また、かかりつけ歯科医のあるお子さんの数も多く、ご家庭の意識が高いことがわかる。お子さんのことだけでなく、保護者の方も定期的な歯科検診を受けることを意識してほしい。

有意義な話し合いとなりました。
お越しいただき、ありがとうございました!



PTA 保護者より

体育の指導法について、タブレットで学んで実践することが多くなってきているが、教員が実演して、見せてはどうだろうか。⇒児童同士で学び合いをしてほしいという教師の思いもあるが、検討していきたい。

4年生のツボミスクールを男女ともに行い、体の違いを学び、お互いをいたわりあえるようになってほしい。⇒5年生の命の授業は男女で受けるため、男女の体の違いや辛い症状等の内容も取り入れていきたい。

教職員の研修に、低血糖時の対応も入れてほしい。⇒薬剤師と連携し、研修していく。